

TF Editor 主なアップデート内容

V4.02

不具合修正 (V4.02)

- TF5,TF3,TF1,TF-RACK V4.00,V4.01 および TF Editor V4.00 において、設定ファイル(.TFF ファイル)をロードしたとき、設定にかかわらず Recall Safe の挙動が更新されない問題を修正しました。

機能追加 (V4.00)

- OVERVIEW 画面に Selected Channel セクションを追加しました。各チャンネルの主な音作りをひとつの画面でできるようになりました。Selected Channel セクションを表示するには、メニューバーの「Setup」→「Home Button Function」で、「CH Strip & Selected Channel」をオンにしてください。
- シーンの FADE TIME 機能を追加しました。TF Editor では FADE TIME のみ設定します。
- チャンネルを自由にアサインできるミュートグループ 3~6 を追加しました。チャンネルのアサインは SETUP 画面→MUTE GROUP ASSIGN 画面、または各チャンネルの ASSIGN 画面で設定します。
- リコールセーフパラメーターの「On」と「Fader」を個別に設定できるようになりました。
- SEND FROM 画面のメニューに Copy/Paste を追加しました。選択している AUX/MATRIX/SUB チャンネルの SEND レベルをコピー/ペーストします。
- AUX/MATRIX/SUB チャンネルのメニューに、CH Copy with Sends/CH Paste with Sends を追加しました。
- AUTOMIXER 画面にグループバイパス機能を追加しました。
- USER DEFINED KEYS と FOOT SWITCH に割り当てできる機能を追加しました。
 - Automixer の Group Bypass と各チャンネルのオン/オフ
 - Mute Master の MUTE GROUP3~6
- ST IN 1/2 チャンネルに、チャンネルディレイを追加しました。
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また一部データを変更しました。

仕様変更 (V4.00)

- ミュートグループマスターがオンのときに、CH STRIP エリアの ON ボタンを操作したときの挙動を変更しました。

V3.60

機能追加 (V3.60)

- USER DEFINED KNOBS に割り当てできる機能に RTA Offset を追加しました。(USER DEFINED CONTROLS 画面)

V3.51

機能追加 (V3.51)

- macOS 10.14 に対応しました。

不具合修正 (V3.51)

- TF Editor V3.50 を TF5、TF3 で使用中に、Input List 画面の Stereo Link を操作するとアプリが強制終了してしまうことがある不具合を修正しました。

機能追加 (V3.50)

- CH1～CH8 に Dugan Automixer を追加しました。
V3.11 以前の TF シリーズで保存されたシーンには、Automixer に関連するパラメーターが含まれていません。そのため、リコールしてもパラメーター値が変更されません。
- AUX センドを Pre に設定したチャンネルのセンドポイントを、Pre EQ か Pre Fader かで選択できる機能を追加しました。
- OUTPUT チャンネルの Monitor Delay と FX の OUTPUT DELAY にある Delay Time パラメーターの設定単位に、「フレーム(frame)」を追加しました。
- MONITOR/CUE 画面に PFL Trim の設定を追加しました。
- MATRIX1/2 バス、MATRIX3/4 バスの組み合わせでステレオペアの設定を追加しました。
INPUT LIST 画面の OUTPUT タブに「MONITOR」を追加しました。OMNI OUT へのパッチのみ設定できます。

仕様変更 (V3.50)

- CUE の動作モードが「Last CUE」のときも、「Mix CUE」のときと同様に CUE スタック*で動作するように変更しました。
*CUE スタックとは、優先順位の低いチャンネルの CUE をオフにすることで、優先順位の高いチャンネルの CUE が復活する動作です。
- MUTE エリアの [INPUT]ボタン/[FX]ボタンがオンの場合に、CH STRIP エリアの[ON]ボタンを操作したときの挙動を変更しました。

V3.11 以前:[ON]ボタンを押すたびに、ミュートの一時解除をオン/オフしていた

V3.50 以降:[ON]ボタンを押すと、ミュートグループから外れて動作する

V3.10

機能追加

- TF シリーズ本体の各チャンネルのチャンネル名、チャンネルカラー、チャンネルアイコンなどの設定を、リスト形式で閲覧したり編集したりできる「Input List 画面」を追加しました。

V3.01(Win)

機能追加

- TF-RACK に対応しました。
- STEREO/SUB Level Link に、差分を維持したままリンク動作する機能を追加しました。

【注意】

差分にあたるオフセット値もシーンメモリーに保存されます。V2.50 以前の TF シリーズで保存されたシーンにはオフセット値が含まれていませんので、そのシーンをリコールしてもオフセット値はリコール前のまま変更されません。

- AUX9/10～AUX19/20 から SUB バスへのセンドを追加しました。
- FX1/FX2 チャンネルに SEND FROM 画面を追加しました。
- ツールバーのメーターに Matrix1-4 を追加しました。
- チャンネルライブラリーの初期 Preset に、新規 Preset を追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更(V3.00)

- エフェクト「Multi Band Comp」に、Low/Mid/High のスレッショルドの差分を維持したままリンク動作する機能を追加しました。また、急激な音量変化を防ぐために、Make Up パラメーターを廃止しました。
- ステレオリンクしたチャンネルの Input Gain の相対リンク動作を、最大値/最小値になっても差分を保持する仕様に変更しました。
- SYSTEM SETUP 画面と USER SETUP 画面を統合して、SETUP 画面に変更しました。
- TF シリーズ本体との接続に、Administrator のパスワードが必要になりました。
- TF シリーズの設定ファイル(コンソールファイル)に含まれているチャンネル選択、フェーダーバンク選択、SENDS ON FADER の状態をロードしない仕様に変更しました。
- Load/Save/Save As を実行するときに開くブラウザー画面で、選択できるファイルの種類を TFF ファイルに統一しました。

仕様変更(V3.01)

- (TF-RACK のみ) プリセットシーンの OMNI OUT Patch の設定を、リアパネルの印刷に合わせて ST L が OMNI 7、ST R が OMNI 8 となるように変更しました。
- 本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

動作改善

- Manage Library/Scene 画面のセパレーターで左右のペインの大きさを変更できるようにしました。その他、レイアウトを変更しました。

不具合修正(V3.00)

- ST IN チャンネルの INPUT 画面を表示した状態で、メニューの「Initialize Memory」を実行すると、TF Editor が強制終了する不具合を修正しました。
- Manage Library/Scene 画面で、MATRIX チャンネルのライブラリーのカテゴリーを操作すると、TF Editor が強制終了する不具合を修正しました。
- SEND FROM 画面のコンテキストメニューで「All Nominal」を実行したときに、Send Pan がセンターになってしまう不具合を修正しました。

- その他の軽微な不具合を修正しました。

不具合修正(V3.01)

- ステレオリンクを設定していないチャンネルのアナログゲイン(A.Gain)を操作したときに、本体の同じ INPUT 端子を共有する別のチャンネル(TF5: CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1/TF-RACK:CH1-16 と CH17-32)がステレオリンク設定されていると、入力ソースが一致していなくても、該当する隣のチャンネルとリンク動作してしまう不具合を修正しました。

既知の不具合

- TF Editor を V2.50 以前から V3.0 にアップデートしたときに、ネットワークインターフェースの選択が初期化されます。必要に応じてメニューの Setup → Network Interface から TF シリーズ本体との接続に使用するネットワークインターフェースを選択しなおしてください。

V3.01(Mac)

機能追加

- TF-RACK に対応しました。
- STEREO/SUB Level Link に、差분을維持したままリンク動作する機能を追加しました。

【注意】

差分にあたるオフセット値もシーンメモリーに保存されます。V2.50 以前の TF シリーズで保存されたシーンにはオフセット値が含まれていませんので、そのシーンをリコールしてもオフセット値はリコール前のまま変更されません。

- AUX9/10～AUX19/20 から SUB バスへのセンドを追加しました。
- FX1/FX2 チャンネルに SEND FROM 画面を追加しました。
- ツールバーのメーターに Matrix1-4 を追加しました。
- チャンネルライブラリーの初期 Preset に、新規 Preset を追加しました。
本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行するとライブラリーリストに追加されます。

仕様変更(V3.00)

- エフェクト「Multi Band Comp」に、Low/Mid/High のスレッショルドの差분을維持したままリンク動作する機能を追加しました。また、急激な音量変化を防ぐために、Make Up パラメーターを廃止しました。

- ステレオリンクしたチャンネルの Input Gain の相対リンク動作を、最大値/最小値になっても差分を保持する仕様に変更しました。
- SYSTEM SETUP 画面と USER SETUP 画面を統合して、SETUP 画面に変更しました。
- TF シリーズ本体との接続に、Administrator のパスワードが必要になりました。
- TF シリーズの設定ファイル(コンソールファイル)に含まれているチャンネル選択、フェーダーバンク選択、SENDS ON FADER の状態をロードしない仕様に変更しました。
- Load/Save/Save As を実行するときに開くブラウザー画面で、選択できるファイルの種類を TFF ファイルに統一しました。

仕様変更(V3.01)

- (TF-RACK のみ) プリセットシーンの OMNI OUT Patch の設定を、リアパネルの印刷に合わせて STL が OMNI 7、ST R が OMNI 8 となるように変更しました。

本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると変更が反映されます。

動作改善

- Manage Library/Scene 画面のセパレーターで左右のペインの大きさを変更できるようにしました。その他、レイアウトを変更しました。

不具合修正(V3.00)

- Manage Library/Scene 画面で、MATRIX チャンネルのライブラリーのカテゴリーを操作すると、TF Editor が強制終了する不具合を修正しました。
- SEND FROM 画面のコンテキストメニューで「All Nominal」を実行したときに、Send Pan がセンターになってしまう不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

不具合修正(V3.01)

- ステレオリンクを設定していないチャンネルのアナログゲイン(A.Gain)を操作したときに、本体の同じ INPUT 端子を共有する別のチャンネル(TF5: CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1/TF-RACK:CH1-16 と CH17-32)がステレオリンク設定されていると、入力ソースが一致していなくても、該当する隣のチャンネルとリンク動作してしまう不具合を修正しました。

既知の不具合

- TF Editor を V2.50 以前から V3.0 にアップデートしたときに、ネットワークインターフェースの選択が初期化されます。必要に応じてメニューの Setup → Network Interface から TF シリーズ本体との接続に使用するネットワークインターフェースを選択しなおしてください。

V2.00(Win)

機能追加

- エフェクトタイプに「Ping Pong Delay」、「Dual Pitch」を追加しました。
- シーンやライブラリーを管理する「Manage Library/Scene」画面を追加しました。
- チャンネルライブラリー(QuickPro Preset)のダウンロードページを開くメニューを追加しました。
※インターネット接続が必要です。
- AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でノミナル(0 dB)に設定する機能「All Nominal」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。
- AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でチャンネルフェーダーの設定値と同じにする機能「Dup.STEREO」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。
- ST IN1/2 や FX RTN 1/2 チャンネルから SUB バスへのセンドができるようになりました。

ご注意

このパラメーターが存在していないファームウェア V1.x で作成したシーンやチャンネルライブラリーをリコールしたときは、このパラメーターは変更されません。

- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また、一部のプリセットデータを更新しました。
この変更は、本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると反映されます。

仕様変更

- ステレオリンクしたモノラルチャンネルのチャンネルネームが連動しない仕様に変更しました。ただし、ST IN や AUX9/10 など、常にステレオで動作するチャンネルは連動します。リバース系や ER 系のエフェクトを FX1/2、InsFX1~6 のすべてで使用できるようになりました。

動作改善

- ライブラリー画面の使い勝手を向上しました。

- リコールできないライブラリーが表示されなくなりました。
- チャンネルタイプの異なるプリセットから、EQ、COMP、FX などのモジュールを個別にリコールできるようにになりました。
- ネットワーク設定が DHCP のときに、ネットワーク内に DHCP サーバーが存在していない状態でも、TF Editor とメーターのデータ通信ができるようになりました。
- TF Editor や StageMix でシーンのストアやリコールをしたときに、TF シリーズ本体に表示されるシーン番号やタイトルも追従するようになりました。

不具合修正

- チャンネルリンクが設定されている状態で入力ソースを「INPUT」に設定してアナログゲインを操作すると、同じ INPUT 端子の入力信号を使うチャンネル(TF5:CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1:CH1-16 と CH17-32)のアナログゲインが、入力ソースの選択に関わらずリンクしてしまう不具合を修正しました。
- メーター表示で、OVER レベルの Peak Hold ができない不具合を修正しました。
- メーターポイントが現在の設定と違う設定ファイルをロードすると、一部のメーター動作が設定どおりにならない不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

V2.00(Mac)

機能追加

- エフェクトタイプに「Ping Pong Delay」、「Dual Pitch」を追加しました。
- シーンやライブラリーを管理する「Manage Library/Scene」画面を追加しました。
- チャンネルライブラリー(QuickPro Preset)のダウンロードページを開くメニューを追加しました。
※インターネット接続が必要です。
- AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でノミナル(0 dB)に設定する機能「All Nominal」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。
- AUX バスや SUB バスへのセンドレベルを一括でチャンネルフェーダーの設定値と同じにする機能「Dup.STEREO」を、各 SEND FROM 画面のメニューに追加しました。

- ST IN1/2 や FX RTN 1/2 チャンネルから SUB バスへのセンドができるようになりました。

ご注意

このパラメーターが存在していないファームウェア V1.x で作成したシーンやチャンネルライブラリーをリコールしたときは、このパラメーターは変更されません。

- チャンネルライブラリーの初期プリセットを追加しました。また、一部のプリセットデータを更新しました。この変更は、本バージョンにアップデートしたあと、「Initialize All Memory」を実行すると反映されます。

仕様変更

- ステレオリンクしたモノラルチャンネルのチャンネルネームが連動しない仕様に変更しました。ただし、ST IN や AUX9/10 など、常にステレオで動作するチャンネルは連動します。
- リバース系や ER 系のエフェクトを FX1/2、InsFX1~6 のすべてで使用できるようになりました。

動作改善

- ライブラリー画面の使い勝手を向上しました。
 - リコールできないライブラリーが表示されなくなりました。
 - チャンネルタイプの異なるプリセットから、EQ、COMP、FX などのモジュールを個別にリコールできるようになりました。
- ネットワーク設定が DHCP のときに、ネットワーク内に DHCP サーバーが存在していない状態でも、TF Editor とメーターのデータ通信ができるようになりました。
- TF Editor や StageMix でシーンのストアやリコールをしたときに、TF シリーズ本体に表示されるシーン番号やタイトルも追従するようになりました。

不具合修正

- チャンネルリンクが設定されている状態で入力ソースを「INPUT」に設定してアナログゲインを操作すると、同じ INPUT 端子の入力信号を使うチャンネル(TF5:CH1-8 と CH33-40、TF3:CH1-16 と CH25-40、TF1:CH1-16 と CH17-32)のアナログゲインが、入力ソースの選択に関わらずリンクしてしまう不具合を修正しました。
- メーター表示で、OVER レベルの Peak Hold ができない不具合を修正しました。

- メーターポイントが現在の設定と違う設定ファイルをロードすると、一部のメーター動作が設定どおりにならない不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

V1.13(Win)

動作改善

- MUTE エリアの INPUT ボタンや FX ボタンをオンにしたとき、または DCA1~8 の ON ボタンを操作したときに、それぞれミュートされているチャンネルが具体的にわかるように、チャンネルストリップエリアの ON ボタンの点灯、点滅、消灯の動作を改善しました。
- AUX チャンネルの CUE がオンになっているときに、CUE の対象となる AUX チャンネルが SENDS ON FADER エリアの操作と連動するように改善しました。

修正した不具合

- Window メニューの Zoom 機能で画面の拡大縮小をしたときに、倍率を戻しても全体のサイズが戻らない不具合を修正しました。
- LIBRARY 画面で Preset のエクスポートをタッチ操作で行なったときに、動作が重くなる不具合を修正しました。

既知の不具合

- メーターポイントが現在の設定と異なるコンソールデータをロードすると、一部のメーター動作が設定どおりにならない問題があります。ファイルロード後にメーターポイントを再選択してください。

V1.13(Mac)

仕様変更

- ウィンドウ左上の緑のボタンの機能を「フルスクリーン」から「最大化」に変更しました。

動作改善

- MUTE エリアの INPUT ボタンや FX ボタンをオンにしたとき、または DCA1~8 の ON ボタンを操作したときに、それぞれミュートされているチャンネルが具体的にわかるように、チャンネルストリップエリアの ON ボタンの点灯、点滅、消灯の動作を改善しました。

- AUX チャンネルの CUE がオンになっているときに、CUE の対象となる AUX チャンネルが SENDS ON FADER エリアの操作と連動するように改善しました。

修正した不具合

- Window メニューの Zoom 機能で画面の拡大縮小をしたときに、倍率を戻しても全体のサイズが戻らない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Retina ディスプレイの Mac で Zoom 機能を使って画面を拡大すると、動作が重くなる場合があります。Zoom を「100%」でお使いください。
- メーターポイントが現在の設定と異なるコンソールデータをロードすると、一部のメーター動作が設定どおりにならない問題があります。ファイルロード後にメーターポイントを再選択してください。

V1.12(win)

機能追加

- Window メニューに Zoom 機能 (100%、150%、200%) を追加しました。

仕様変更

- About メニューを Help メニューに変更しました。(Windows 版)
- チャンネルライブラリーの初期プリセットを上書き禁止に変更しました。また、初期プリセットの一部のデータを変更しました。この仕様変更を反映するには、TF Editor を V1.12 にアップデートしたあと、「Initialize All Memories」を実行してください。

不具合の修正

- 軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- メーターポイントが現在の設定と異なるコンソールデータのロードを行うと、一部のメーター動作が設定どおりにならないという不具合が見つかりました。
ファイルロード後にメーターポイントを再選択してください。

V1.10

リリースバージョン